

JA 全農ちば 営農情報集

2024 年
11 月



今月の情報

1. 病害虫防除（園芸）
2. 農薬散布器具の洗浄

今月の気象（気象庁 10/31 発表 1 か月予報より）

季節の前半は気温が高くなる予報ですが、
気温の低下し始める時期ですので施設の
暖房、路地の被覆などの準備をしま
しょう。また、降水確率が高い予報
となるため、病気の発生にも気をつ
けましょう。



注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

園芸野菜 病害虫防除情報

1. はじめに

気温が下がり、施設栽培では、保温のために夜間は閉め切る時期になりました。すでに最低気温が 10℃を下回り始めている地域もありますので、温度管理には十分注意しましょう。また、降雨が多くなってくると病害の発生リスクが高まります。引き続き、早めの防除を徹底しましょう。

2. トマト・キュウリー 灰色かび病 **薬剤防除の前に耕種的防除を実施！**

(1) 除湿

灰色かび病は 20℃前後の気温と多湿を好みます。夜間、ハウスを閉め切る時期は湿度が高くなりがちです。除湿のための天窓換気、暖房機による早朝加温、送風等を実施しましょう。また、薬剤散布はなるべく午前中に行い、ハウスを閉め切るまでに薬液が乾くようにしましょう。

(2) 施設圃場の管理

灰色かび病は、咲き終わった花卉や枯れた葉等に寄生してから健全な部位へと移っていきます。果実に付着した花卉や枯れた葉が残っていると、灰色かび病の発生源となります。同様に、発病した葉や果実を通路に放置せず、必ずハウスの外へ持ち出して処分しましょう。



発生源となる咲き終わった花卉 茎に発生すると被害が大きくなる

残さを通路に放置しない

(3) 薬剤防除

● トマト 灰色かび病 防除薬剤

FRAC コード*	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000~4000	収穫前日 まで	3回以内	予防
7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
9	フルピカフロアブル	2000~3000		4回以内	予防
12	セイビアーフロアブル 20	1000~1500		3回以内	予防
1+10	ゲッター水和剤	1000~1500		5回以内	予防・治療

● キュウリ 灰色かび病 防除薬剤

FRAC コード*	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000	収穫前日 まで	7回以内	予防
7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
9	フルピカフロアブル	2000~3000		4回以内	予防
12	セイビアーフロアブル 20	1000~1500		3回以内	予防
2+10	スミブレンド水和剤	1500~2000		5回以内	予防・治療

農作業安全管理機による巻き込まれ事故注意！ 転回・バック時は慎重に！

食の安全・安心 農薬散布器具は毎回必ず洗浄！

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部

3. トマト — コナジラミ類

(1) コナジラミ類

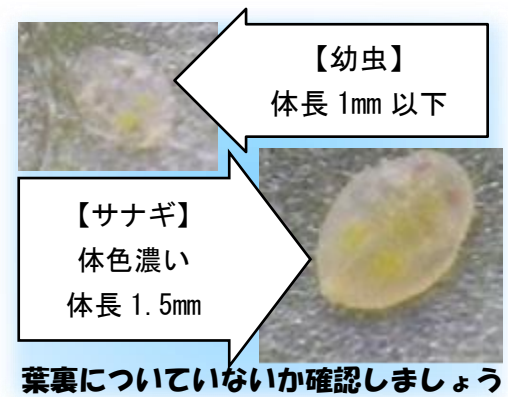
県内では、オンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生しています。これらは共通して黄化病ウイルス (ToCV) を、タバココナジラミは黄化葉巻病ウイルス (TYLCV) を媒介します。千葉県による病害虫発生予報第7号 (令和6年9月18日発表) では、これら両種および黄化葉巻病の今後の予想発生量が「やや多」となっています。早めの防除を行いましょう。



タバココナジラミ成虫

○薬剤使用時のポイント

- ア、コナジラミ類は主に葉裏に寄生しています。葉裏にも薬剤がかかるよう散布しましょう。
- イ、白い成虫が目につく高さを飛んでいて気が付くことが多いですが、寄生は下葉から始まります。かがんで下葉を返し右のような幼虫・サナギが見つかった場合は、すぐに防除を実施しましょう。
- ウ、同系統薬剤の連用は避けましょう。



(2) 薬剤防除

● トマト コナジラミ類 防除薬剤

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
6	アフーム乳剤	2000	収穫前日 まで	5回以内
	アグリメック	500~1000		3回以内
4A	ベストガード水溶剤	1000~2000		3回以内
5	ディアナSC	2500		2回以内
28	ベネビアOD※	2000		3回以内
30	グレーシア乳剤	2000		2回以内
9B	コルト顆粒水和剤	4000		3回以内
4C	トランスフォームフロアブル	1000~2000		2回以内

※薬害の可能性があるのでアミスター等のQoI剤との混用・隣接散布は避ける

4. トマト — うどんこ病

予防的な薬剤散布を実施！

- (1) 表生型 (Oidium neolycopersici)、内生型 (Oidiopsis sp.) の2種類があります。内生型は菌が葉の内部に広がるので防除が難しく、被害も長期化します。
- (2) 内生型は適温 18~25℃、感染~発病まで 16~21 日ほどで、発病まで長期間かかります。発生してからの防除では後手にまわってしまうため、予防が重要です。
- (3) 内生型は主に葉裏の気孔から侵入するので葉裏まで薬剤がかかるよう散布しましょう。

● トマト うどんこ病 う・葉かび病 葉・すすかび病 す 防除薬剤

対象病害	FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
う	9+U13	ショウチノスケ フロアブル※	2000	収穫前日	2回以内	予防・ 治療
	3+U6	パンチョ TF 顆粒水和剤 ※	2000	収穫前日	2回以内	予防・ 治療
う ・ 葉 ・ す	M7	ベルコートフロアブル	2000~4000	収穫前日	3回以内	予防
	7+11	シグナムWDG	2000	収穫前日	2回以内	予防・ 治療
う 葉 ・ す	7	アフエットフロアブル	2000~4000 2000	収穫前日	3回以内	予防

※ショウチノスケはガッテン乳剤とフルピカフロアブル、パンチョはトリフミン、シグナムはカンタスドライフロアブルとの混合剤のため総使用回数に注意

5. キュウリ — コナジラミ類・アザミウマ類

ウイルス病の蔓延に注意！

(1) コナジラミ類

県内で発生するコナジラミはタバココナジラミとオンシツコナジラミです。特に、タバココナジラミはウリ類の退緑黄化病の病原ウイルス (CCYV) を媒介します。

(2) アザミウマ類

県内で発生するアザミウマはミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマの3種です。特に、ミナミキイロアザミウマはメロン黄化えそ病の病原ウイルス (MYSV) を媒介します。

(3) 耕種的・物理的防除

薬剤防除を行う前に発生源となる周辺雑草の除草、施設への防虫ネット (0.4mm が好ましい) の設置が重要な対策になります。また、コナジラミ類は黄色、アザミウマ類は青色の粘着板によって発生予察を行いましょう。

(4) 薬剤防除

●キュウリ コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤

対象害虫 ※1	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数 ※2	使用時期	使用回数
コ	9B	コルト顆粒水和剤	4000	収穫前日 まで	3回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	1000		2回以内
コ・ミナミ	4A	ベストガード水溶剤	1000		3回以内
コ・ア	6	アフアーム乳剤	2000		2回以内
		アグリメック	500		2回以内
	28	ベネビア OD	2000		3回以内
	30	グレーシア乳剤	2000		2回以内
ア	UN	プレオフロアブル	1000		2回以内
ミナミ	15	カスケード乳剤	2000		4回以内

※1 コ：コナジラミ類、ア：アザミウマ類、ミナミ：ミナミキイロアザミウマ

※2 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000倍登録→1000）

6. キャベツ – べと病・黒斑病

降雨前後は要注意！

(1) べと病

はじめ下葉に黄色いぼんやりした病斑があらわれ、しだいに拡大して、葉脈で区切られた多角形になります。病斑の裏側には白色のカビが霜のように発生します。比較的気温が低く降雨が続いた場合、感染が急拡大することがあるため、長い降雨後はすぐに防除を行いましよう。

(2) 黒斑病

結球期から収穫期にかけて下葉に発生します。病斑は 2~10mm 程度のくっきりした黒褐色の円形斑点で明瞭な同心斑紋を生じます。肥料切れの時に発生が多くなります。

(3) 薬剤防除

●キャベツ べと病・黒斑病 防除薬剤

対象病害	FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
べと病	21	ランマンフロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防
	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫14日前まで	2回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールド MZ	1000	収穫30日前まで	3回以内	予防・治療
黒斑病	7	カンタスドライフロアブル	1500	収穫7日前まで	2回以内	予防
	7+11	シグナム WDG	1500	収穫7日前まで	2回以内	予防・治療
	11	アミスター20フロアブル	2000	収穫7日前まで	4回以内	予防・治療

7. ネギ - さび病・べと病

予防的な薬剤散布を実施！

病害は多湿条件を好むため、降雨前には予防効果、降雨後は治療効果を持つ剤を使用しましょう。また、夜間にもや・霧が発生する日は病害多発の恐れが高いです。天候に留意しながら防除を行いましょう。

(1) さび病

オレンジ色の隆起した斑点が生じます。20℃前後での発生が多くなり、一度発生してからでは防除が困難な病害です。**予防主体の防除**を行い、**病斑が見られたら直ちに治療剤の散布**に切り替えましょう。



さび病の病斑▷

(2) べと病

葉身が黄色くぼやけ、表面にはやがて灰暗色のカビが発生します。さらに進展すると、被害部から葉が折れてしまいます。感染から発病までは非常に速い病害です。**降雨前には予防剤を散布**し、降雨後も多湿圃場では被害の急拡大に注意しましょう。



べと病の初期病斑

(3) 薬剤防除

●ネギ さび病・べと病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
さび病	7	アフェットフロアブル	2000	収穫前日まで	2回以内	予防
	3	オンリーワンフロアブル	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
さび病・べと病	M3	ペンコゼブフロアブル※	500~600	収穫14日前まで	3回以内	予防
	11	メジャーフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	予防・治療
		アミスター20フロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防・治療
べと病	21	ランマンフロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防
	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールドMZ※	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療

※ペンコゼブフロアブルとリドミルゴールドMZは同成分（マンゼブ）を含むため、合わせて3回までなので総使用回数に注意

安全な農作物生産の取り組みについて

～農薬散布時の服装～

1. 農薬事故について

全国では毎年数十件、農薬の使用に伴う事故が発生しています。農林水産省の調べによると、平成29～令和3年度の5年間における農薬事故98件中19件(19.4%)が『**マスク、メガネ、服装等の装備が不十分**』に起因した事故でした。農薬のラベルにも薬剤ごとに注意事項が記載されています。事故を防ぐためにも、記載内容に従って適切な保護具を着用しましょう。

2. マスクについて 薬剤・用途に応じ選択

農薬を散布する際、散布液の粒子が飛散し、皮膚、鼻、口等から体内に入り込む可能性があります。マスクは数種類あります。農薬の剤型などに従い、適切なマスクを着用しましょう。

- (1) 農薬用マスク・・・国家検定合格の使い捨て式防塵マスク。農薬の粉剤および液剤を散布するときに着用します。農薬用マスクは原則使い捨てです。
- (2) 防護マスク・・・国家検定合格のフィルタ取替式防塵マスク。急性毒性の高い農薬（粉剤、液剤）を散布するときに着用します。
- (3) 吸収缶付防護マスク（土壌くん蒸剤用）
 - ・・・国家検定合格の有機ガス用の吸収缶のついた防護マスク。クロルピクリン、D-Dなどのガス化（気化）しやすい農薬の使用時に着用します。
 吸収缶にも種類がありますので、間違いのないようセットしましょう。

3. 服装について 肌を露出しない、目・鼻・口を守る

農薬使用時は、防除衣や防止、マスク、メガネ、手袋、長靴などの保護具を着用しましょう。

